

四国の名山を訪ねてみよう

石鎚山・剣山

- 実施日 2012年5月6日(日)～9日(水)
 天候 5/7 曇り 5/8 晴れ 5/9 晴れ
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、石附智江、中村友子、宇野輝代 計4名
 費用 交通費29,500円(JR・航空機・レンタカー)、ロープウェイ・リフト2,800円、宿泊22,950円(3泊) 合計55,250円
 タイム 5/6 新居浜(13:08)トヨタレンタカー(13:15~13:30)石鎚ロープウェイ下谷駅(14:50~15:20)山頂成就駅(15:30~15:38)成就社白石旅館(16:00~16:10)黒川山・アケボノツツジ(16:40~16:50)白石旅館(17:20) 泊
 5/7 白石旅館(6:00)八丁鞍部(6:30)夜明峠(8:05)弥山(9:15~9:30)二の鎖小屋(9:45~10:00昼食)八丁(11:45)成就社(12:20~12:35)ロープウェイ成就駅(13:00~13:10)駐車場(13:15~13:30)見ノ越民宿(17:00) 泊
 5/8 宿(8:45)リフト山麓駅(8:50~9:00)リフト西島駅(9:15~9:20)大剣神社(9:40~9:45)主稜線(10:20)次郎笈(10:50~11:10)劔山頂(12:00)一ノ森方面への山頂テラス(12:05~12:30)昼食一ノ森(13:20~13:30)刀掛の松(14:40~14:45)リフト西島駅(14:55)見ノ越(15:25~15:30)レンタカー)奥祖谷二重かずら橋(16:00~16:50)旅の宿奥祖谷(17:20) 泊
 5/9 宿(8:30)奥祖谷民族資料館(8:40~9:30)大歩危～小歩危～鳴門大橋・渦の道(13:00~14:20)徳島市・阿波踊り会館(15:50~16:50)徳島空港(17:15~19:35)羽田空港(20:45) 解散

5/6 GW最終日、下り便は混雑もなく岡山から予讃線に乗換、新居浜で下車。タクシーで5分レンタカー営業所から山行の開始となる。

春うららの穏やかな日差しの中を進み石鎚山麓のロープウェイ下谷へ向かう。

駐車場に車を預けロープウェイで標高差850mを10分で稼ぐ。

成就駅から遊歩道をのんびり登り、成就社の白石旅館へ、チェックイン。成就社拝殿を通して見る石



鎚山に詣で明日の登山の成就を祈願する。その後、アケボノツツジの満開情報を得てライトイクへ出る。あまりライトではない山道を30分以上歩いて、山肌に数本のアケボノツツジの濃いピンクがひっそりだが華やかに石鎚山の眺めを引き立てていた。

山中の旅館としては満足できる山菜づくしの夕食と前夜祭で
 z z z ...

5/7 6時に宿を出るが、何となく曇空が恨めしく、気温も低めでちょっと嫌な感じである。神門から登山道は始まるが、ほぼ100m程の下りからで、復路の登山返しを考えると天候と相まってのっけから氣勢もそがれる？八丁鞍部の底まで下ると、一転して登りになるが、道はほぼ山頂まで木段が連なっている道であった。

鳥の声が聞こえるのみの静かな道をじっくりと登り続けていると、いきなり右



側に鎖が下がり試しの鎖場に出た。鎖コースは下りも厳しい鎖場で…と脅かされるが、取り敢えずは試しと鎖場に取り付く。傾斜はそれ程でもないが、思いの外長い岩場であり、濡れた部分もあり結構緊張させられる。登り切って祠のあるピークから下りの鎖になるが、終了

点最後の足場が良くない。降りて小屋がありひと登りすると夜明峠になる。ここから辺りから展望の楽しみもある筈だが、雲は切れ目を見せず山頂部はガスに覆われたままでパラパラ小雨が舞う状態である。

試しより短いという一の鎖になり、様子を見るが雨もあるが細かいスタンスが滑り易いので無理をせずに巻道を行く。

二の鎖手前で左から土小屋ルートが合流し、二の鎖になるが巻道をゆっくり登る、木段、栈道がなければ通過出来ないような道だ。最長の三の鎖も巻いて頂上小屋に出ると弥山である。



が、周囲に見えるのは乳白色のスクリーンのみで、展望を表す銘盤で天狗岳の方向を確認するの

みであった。山頂の社に手を合わせ、写真だけで冷たい風が舞う山頂を辞した。

二の鎖小屋で早めの昼食を済ませ、往路をのんびりと下る、連休過ぎの平日でも時々登山者で行き違うのはやはり人気の山だ。白装束の人もいるのは、山にしっかり山岳信仰が根付いているのを感じさせる。最後の登り返し辺りで雨に降られるが、予想範囲の時間で成就社へ戻れた。

旅館に預けた荷物を回収後、ロープウェイで駐車場へ下山。石鎚山行は終了した。天狗岳へ今度は秋にでもまた行くか？

次の剣山麓の見ノ越へ移動を開始だ、下界は天候も落ち着いており好天の部類だ。

うねうねとした国道とは思えない狭い道を延々と辿り、17時過ぎに見ノ越の民宿に到着、今度は明日の好転を剣の神様をお願いすることになった。

5/8 今日、明日の行程を変更したので剣山はリフトで高度を稼ぐことにして、始発の9時に合わせて宿を出る。一番のリフトで西島駅へ、今日は展望も開け空も明るく

春の陽を浴びての歩きが出来そうと有難い。遥かに三嶺(ミウネ)かっこ良い姿を見せている、登りたくな



る姿である。

西島からの4ルートの中から右から二本目の大剣神社ルートを歩きだす、所々芽



吹き草花も目にしながらゆっくり登り、大剣神社へ拝礼してから病平癒と若返りの日本の百名水の御神水(オキミズ)へ下る。

しっかり若返って??山腹のトラバースする道主稜線に向かって進む。右前方に向かう次郎笈が素晴らしい姿を見せてくれ、歩いていても気分が良い。剣山からの主稜線に出て、右へ少し下り最低鞍部から次郎笈本峰の登りにかかる。四国笹の明るい尾根の登りだが適度?な傾斜と好天、好展望で厭な登りとは感じなかった。

三嶺への縦走路の僅か先に山頂になった。剣山に對面する頂は360度ぐるりと四国にもこんな山が・・・と思うような展望が広がっている。



遠望はやや春霞で墨絵



のように峰々が空に溶け込んでいる。今我々だけのために用意してくれた素晴らしい山頂の時間に感謝する。

次郎笈に別れを告げて、剣山本峰に戻ることにする。今度は正面になった剣山の登りだが、次郎笈とほぼ同じような傾斜、距離の登りで鞍部からワンピッチで剣山頂稜の木道部に登り着いた。四国2位の峰からは遮るものがない展望が開ける。三角点は木道から少し離れて石積みに囲まれいて、触れることは出来ないが、満足、満足。



平家の馬場と呼ばれる広い山頂部は裸地化防止の木道を歩くことになるが、観光

登山者が多い現状では仕方ないのだろう。
一ノ森への入口にあるテラスで昼食を済ませ、一ノ森へ向かう、笹原の道から岩の多い下り、小さな二ノ森から少し下ると雪崩で殉職した気象庁職員の殉難碑から一ノ森の登りになる。前二回よりは短いが一汗かく道である。山頂手前の展望台で先程の次郎笈始めしばし展望を楽しみ一ノ森山頂へ。鯉のぼり



舞う？山頂で写真撮り、一ノ森ヒュッテからのトラバース道で殉難碑へ戻り、右方へ行者道経由で戻り路へ踏み出す。

北側の山腹を巻くようにつけられている道はこれまでの明るい山から、倒木なども見られ少し荒れたイメージになるが、道形はしっかりしている。殆ど水平か下り気味に進み、両剣神社、古峰神社辺りでは大岩が多く行場もあるようだが良く分からなかった。7月にはキングシユワで賑わう登山道も、今日は修復や食害防止の作業が行われていた。だれた気分には



少し苦しい登りが終わると刀掛けの松に着く、ワトの西島駅へは後下るだけである。すっかり枯れて

しまった松が横たわるが、源氏に追われた安徳天皇が『草薙の剣』を剣山に収める際、ここで休憩し縁起の良い松の木に剣を掛けたことからそう呼ばれているそうである。

ウグイスの谷渡りをお供に10分程で西島駅へ、見ノ越へは歩いて下り、剣神社でパンパンしてクルマを預けた民宿に戻った。

その後は山やから観光客になって、奥祖谷

の二重かずら橋へ寄り貸切で7スレックを存分に楽しんで、宿舎へチェックイン。

美味しい郷土料理と沢音を聞

きながら四国3泊目も無事に終了。

5/9 今日は徳島観光です。まず奥祖谷民俗資料館で祖谷と平氏についてお勉強（既にな～んも覚えてない？）で次、途中暗雲に覆われ雨となるも、大歩危辺りで青空復活、更に空いた高速を経由して大鳴門大橋の渦の道で、丁度大潮の迫力



ある渦潮を見て、徳島では踊るアホウ・・・もちよびっと楽しんで、予定の行程は全て完了です。

少人数での実施だったが、一応予定の歩きが出来て良かったと思っている。

ただ、石鎚・天狗岳が未踏となってしまう、再訪があるかも？

とってもとっても楽しい山行が実施でき、参加メンバーに感謝です。

また、こんな山行したいですね。

（記&写真提供・涌井 良明）



アケボノツツジ



次郎笈から縦走路と剣山